



# SCOUT CHIBA

## スカウト ちば

平成21年度の目標  
広めよう!  
スカウティングの  
楽しさをみんなに

発行：日本ボーイスカウト千葉県連盟

運動拡大委員会

発行責任者：小川 信一

編集長：上野 孝

〒263-0016 千葉県稲毛区天台6-5-2 千葉県青少年女性会館内

TEL 043-287-1755 FAX 043-287-1786

<http://www.scoutchiba.jp/>

	回数		隊数		団委員		指導者		スカウト		その他		計																	
	登録数	前年度末数	隊数	団委員	指導者	スカウト	その他	計	計	計	計	計	計	計																
	117	119	548	1,463	2,122	5,130	2	8,717	110	112	416	479	678	1,018	1,116	1,117	1,447	1,591	155	155	258	282	921	949	96	96	140	149	610	611

[加盟登録状況]平成21年8月末日現在

## ごあいさつ

ボーイスカウト千葉県連盟 理事長 山田 龍雄



このたび60年の歴史を持つ千葉県連盟の理事長職を、鈴木国夫氏より引き継ぐことになりました。皆さま方のお力をお借りして県連盟の運営に尽力し、ボーイスカウト運動を通じて、青少年育成のために最善を尽くして参りたいと存じます。まずは「指導者が、スカウトと共に楽しめるスカウト活動の推進」をテーマとして、皆さま方と努力してまいります。目の前には第

15回日本ジャンボリー（平成22年8月）、第18回千葉県連盟カプラー（平成23年5月）、第22回世界スカウトジャンボリー（平成23年8月）の開催が迫っています。

また平成27年8月には、第23回世界スカウトジャンボリーを「山口市きらら浜」で開催することが決定しています。千葉県スカウト達が、このようなイベントに積極的に参加して、海外のスカウトとの国際

交流等々も楽しみ、まさに「指導者が、スカウトと共に楽しめるスカウト活動」ができるように、皆さまとともに強力に推進したいと考えております。

## バンングラデシュ派遣に参加して 香取東総地区 旭第1団 ローバースカウト隊 青手木 真希



私は平成20年度アジア太平洋提携プロジェクト(バンングラデシュ)派遣に参加した。この派遣は1998年に始まり、第1次、第2次5か年計画を終了し、現在第3次5か年計画が進行していて、今回の派遣は通算12回目の派遣となった。

私がこの派遣に参加したきっかけは、以前から海外でのボランティア活動に興味があったこと。加えて、前回この派遣に行った人の話を聞き、私自身にできることをしたいと思ったのと、今まで何かしたいと思っていても、何もできなかったのが、この派遣は自分で動くチャンスだと思ったからだ。

派遣では、モエシュカリ島で1週間の啓発活動(「母子の健康」「水・寄生虫」「ゴミ・環境」)を行った。最初に家庭を訪問して質問をするベースラインサーベイ活動をし

た。次に、スケッチブックを使用し紙芝居形式で啓発内容を伝えるハウス・トゥ・ハウスを行ない、最後に村人を集めて啓発活動をするブース・デモンストレーションを行ないました。どの啓発活動も村人の反応はすごく良かった。ダッカのローバーやローカルローバー(モエシュカリ島のスカウト)が通訳してくれ、私達の拙いベンガル語の発音にもうなずいてくれたりして、とても嬉しかった。少しでも私達の言ったことが伝わってくれば良いと願います。また、啓発活動以外にも小学校で文具を配った。子供たちは、みんな無邪気でもてかわいく、文具をあげると素敵な笑顔を見せる。歌やダンスでの交流もでき、子供たちの笑顔を見ていると私もとても幸せな気分になった。



首都のダッカでは会議や観光をして、バンングラデシュの文化を学び下痢などの問題を考え、さらにダッカのローバーとの



交流もたくさんすることができてとても楽しかった。

英語の苦手な私はボディランゲージをフル活用し、頑張って単語を思い出しながらやっと話していたのに、みんなはどんどん話しかけてくれ、言葉以上のもので交流ができたと思う。しかし、もっと英語ができればより深く交流ができ、もっと仲良くなれたのでは考えると本当に悔しく感じた。

このようにバンングラデシュでは楽しいこと、嬉しいこと、辛いこと、悲しいこと、幸せなことなど色々なことを学ぶことができた。啓発活動をやっただけでも勉強になったが、やはり文化に触れることでさらに多くのことを学んだ。これからのスカウト活動や普段の生活の中でもこの経験を忘れずに過ごしていきたいと思う。

国際  
交流

## 第8回 韓日スカウトフォーラム派遣報告

大網白里第1団 ベンチャースカウト隊 酒井 絹子

私は平成21年7月30日～8月5日までソウルで開催された第8回韓日スカウトフォーラム派遣に日本代表の一員として参加しました。

## 1. 参加の動機

私がこの派遣に参加したいと考えた背景には、第14回日本ジャンボリーでの二人の韓国スカウトとの交流の体験にある。当時、私は中学2年生で彼らとの会話は片言の英語だったが、それが相手に理解されたときはとても嬉しかった。彼らに日本の童謡を教え、歌えるようになった時の笑顔を見て、文化を伝えることの楽しさを知った。私も彼らから韓国の遊びなどを教わり、異文化を知ることの素晴らしさを知った。異文化交流を再び体験したいという理由から派遣に応募した。



## 2. 参加してどのように成長するか

私は派遣に参加するにあたり、「韓国の文化に肌で触れ、日本の文化を伝えることで国際コミュニケーションを学び、後輩に伝える」という目的と4つの目標を設定した。それは「キムチの種類や漬け方を学ぶ」、「ミスコリアとはどのような大会なのか詳しく調べる」、「空手、年中行事、祭りなど日本文化を韓国の人々に伝える」、「その結果を自分の団で発表する」の4つである。この目的と目標は韓国スカウトとのより深い交流を目指して考えたものだ。



## 3. 視野を広げたフォーラム

フォーラムテーマは「より良き理解 明るい世界」で第1回から変わっていない。

私たちのグループは「How to spread scout activities」の議題で3日間熱心に討議した。この議題を決める時、多くの話題について話し合った。世界にはこんなにも多くの話し合うべき問題があるのかと驚き、自分の考えの浅さ、狭さを思い知った。議題をたくさん提案できるスカウトたちに衝撃を受けた。「よりよき理解、明るい世界」とはどのようなことによって築かれるか。相互理解に必要なのは、相手をよく知ることだ。知識を蓄え、相手を理解する努力をした上で充実したコミュニケーションを積み重ねることで、より理解が深まるのではないだろうか。今回、自分の意見を十分に言えなかったことから、これからは広い視野で自分の考えを持ちたいと考えている。その上で最も重要なことは、充実したコミュニケーションをはかることだ。言葉の内容は深く、話す、聞くといった言語的なものから、相手への思いやり、表情などの心の面、場の空気を察知する感性もそれに含まれると思う。また、より充実したコミュニケーションのためには、多方面からの知識が必要になってくる。相手を理解する努力をした上で意思疎通を図ることで、更に深い理解が期待できるのではないだろうか。互いの理解が深まると、人間は温かい気持ちになり夢や希望を持つようになり、明るい世界へとつながっていくだろう。



## 4. やっぱ英語は大切だ

国際的なコミュニケーションを目指す場合、英語は必要不可欠である。私は今回その必要性を痛烈に感じた。グローバル化が進み必須になるだろう。私は「よりよき理解と明るい世界」実現のために外国語、特に英語の勉強により力を入れて、勉強することを自分に約束した。このようなことを

少しずつ、各自が意識をすることで自然と世界は明るい方向へ進んでいくだろう。今日から明るい世界を目指して努力していきたい。



## 5. 今回の派遣で得たもの

派遣に参加して自分の世界が広がった。そしていろいろなことを真剣に考えるようになった。韓国スカウトの英語力に刺激を受け、更なる努力が必要だと痛感し勉強に対する意欲が沸いた。そして韓国スカウトや日本の派遣団の仲間たちの思いやり深さに感動した。素晴らしい人たちがいる環境で、自分の意識を高めることができた。また、事前準備訓練やフォーラムを通して、仲間の思いやりある態度に感服した。これはとても重要なことだろうと思う。どんなに小さなことでも助け合おうとする姿勢は見習いたい。今後はフォーラムで話し合ったことを、少しずつ実践し、日韓両国の交流の中心になりたいと思う。

最後に、このような貴重な経験が出来たのも、ピーパースカウトから活動を継続して来たこと、団のリーダーの方々、韓国連盟のスタッフの皆様、両親、そして派遣団の仲間たちの支援のお陰である。感謝の心を忘れず、更に成長していきたいと思っている。私の新しい目標は、日本文化を更に詳しく知り、外国の人々に日本のよさを伝えることだ。それにより、よりよき理解、そして明るい世界を築いていきたい。このような素晴らしい体験をより多くのベンチャースカウトが経験して日韓友好の架け橋になって欲しいと願っている。



# 県内各地区の隊活動便り

## ビーバーラリー「原始人とあそぼう」

松戸・鎌ヶ谷地区 松戸第1団 ビーバースカウト隊隊長 小泉恭弘

平成21年7月5日(日)、松戸市21世紀の森と広場公園で、松戸・鎌ヶ谷地区ビーバーラリーが行われました。今回のビーバーラリー(ビーバーまつり)は、地区創立30周年記念行事で、19回目のビーバーラリーでした。公園の中にある縄文時代の家がある森で参加したスカウトは、原始時代の子供に変身!リーダーも見学者もみんな原始人に変身してスタートしました。スカウト、見学者数は、59人。大人も含めると、みんなで145人。公園は原始人であふれました。

今年準備されたコーナーは、6コーナー。①僕たちの石のお金を取り戻せ②はじめにんげんビーバー③獲物だ!狩だ!やっほっほ〜④槍を作ろう!⑤星に願いを!、スカウト達は、リーダーたちが準備したコーナーに果敢にチャレンジ、楽しんでいました。最後の⑥番目の地区のコーナー(救護・立ち

かま 寮・ビーバー  
スカウト写真  
コーナー)で  
は、説明する  
リーダーの話  
をしっかりと聞  
きました。途中  
、何故?どうし  
て?!攻撃もあ  
り笑いが絶えな  
いコーナーとな  
りました。午後  
からはみんなで  
ゲーム:ジャン  
ケン列車。そ  
して、最後は1  
45人全員によ  
るビーバーお  
別れセレモニ  
ー(大きな輪)  
で楽しい一日  
を終えました。



最後に参加したスカウトに楽しかったことは?と聞いたところ「ぜんぶのコーナーみんな楽しかったよ。それとみんなでできた「じゃんけん列車」や「大きな輪」が良かった。」との力強い言葉があり、リーダーとして来年の励みとなりました。

## 本当にあった「きのご合衆国」

東葛地区 我孫子第2団 カブスカウト隊隊長 小口まゆみ

郡山自然の家のキャンプ場には、天然記念物の「きのご岩」と呼ばれる変わった形の岩があります。サマーキャンプの



テーマは「きのご合衆国の小さな旅人」、お金はマッシュです。7月のナイトハイクで、全員がマッシュを手に入れ、パスポートも準備しました。

「きのご合衆国」には岩でできたすべり台、川あそび、大きな森の中のハイキングなど自然がいっぱいです。宝くじではわくわくしながら数字とにらめっこ。当たったスカウトも、残念ながらもはずれたスカウトも犬はしゃぎでした。手作りのお祭り広場にはたくさんのお店があり、売り子になったりお客になったり大いそがし。

・はじめてのキャンプはどきどきで長いと思ったけれど短くて楽しかった(うさぎRちゃん)・協力したから楽しかった(くまSくん)・いっぱい歌って楽しかった(しかMくん、Jくん、Mちゃん、くまRくん)思い出になって良かった(しかYくん)・ナイトハイクは一人ではこわいので組のみんなと行きました(うさぎLくん)・岩のすべり台で自然のスライダーが楽しかった(くまKくん、Tくん、Hくん)・スタンプラリーのハイキングが楽しかった(くまIくん)・じっと待って「気づかせる」デンリーダーはすごいと思った(保護者:Iさん)またいつか、「きのご合衆国」に来てみたいです。

## 伝統の富士山登山

南総地区 君津第2団 ボーイスカウト隊 隊長 児玉正博

我々は年4回のキャンプと4年に一度の富士山登山を伝統としています。スカウトも「思い出は新人の時経験した三舟山の水波み」と言うほど、春は何もない山の中でキャンプを行っています。まだ寒が残る3月、静かな山の中で聞こえるのはサクサクという枯れ葉を踏みしめる音と木々が擦れる風の音だけ。班長はリーダーが待つ山頂に班員を引き連れて登ってくる。テントを張り、トイレを作り、立ちかまどで炊飯する。その時に経験するのが新人スカウトの水波みで、道なき道を10kgの水缶を運ぶ。水を使い過ぎるとまた水波み。サトウハチロー氏の「からだでおぼえたことはわすれない」の詩、「水波みひとつにも上手下手がある」の一節を思い起こします。

もう一つが富士山登山。日本一の山に挑戦した事は「高山病の中、よく頑張ったよな」と思い出話しに盛り上がる。それは個人ではなかなか達成できないことを助け合いながら、途中

おが 拝む御来光や目の前に押し寄せる雲、下界を見下ろすあの感動を味わえるからでしょう。「高い山には登れ」の実行です。

キャンプを経験すると班長が育ちます。それは隊長と班長が揃い3~4日一緒に生活し否が応でも班制度が実践できるからです。その中で役割・連携ができ、全員で立ちかまどやキャンプファイヤーの炎を囲み・見つめ、リーダーの話を聞くだけでスカウトの心が育ちます。私は一人でも多くのスカウトに我が団の伝統を経験してもらいたいと思っています。



## 第1回北総地区キャンポリー くのだれやまに虹を見た! >



平成21年8月5日～9日、野田市関宿あおぞら広場にて、テーマ『青空に友情という虹をかけよう』のもと、スカウト82人、指導者36人、スタッフ21人、計139人、野田第1、2、5、7団、流山第2、3、4、5団の各カブスカウト・ボーイスカウト・ベンチャースカウト隊が参加した。野田市・野田市教育委員会、流山市教育委員会の後援を得て、火起こしゲーム、野田市内一周サイクリング(走行距離→44.4km)、Eポート、月の輪合同プログラムなどをおこなった。

○全体評価として、くのだれやまの仲間が一同に集い、集中豪雨にも負けず『青空に友情という虹をかけよう』のもと、楽しいサイト作り、日々の改善、プログラムの展開と充実したひとときであった。スタッフ間の連携もよく取れ、Eポートでは、安全確保についての議論が盛んであった。

また、この規模での地区開催における運営上の問題もかなり明確になってきた。

## 千葉地区キャンポリー

平成21年8月5日から9日まで、千葉地区キャンポリーが地区8個隊18班の参加を得て、船橋市立大神保青少年キャンプ場で開催されました。この大会は県連盟キャンポリーの代替として地区ラウンドテーブルの場で企画され、実行委員会を編成して実施にこぎつけたものです。

来日した千葉市の姉妹都市、ヒューストン市からの派遣隊も参加して日米共同のキャンプとなったこの大会。大雨にふられた日もありましたが、各班とも理想のサイト作りに挑戦し、ワイドゲーム「逃走中」や料理コンテストなど各種のプログラムにトライして、大変充実した4泊5日となりました。



# 特集

## 各地区で開催さ

## ボーイスカウト東葛地区 キャンポリー2009

地区ボーイスカウト隊は、「Friendship 12」のテーマのもと、平成21年8月12日から15日の4日間、我孫子市五本松運動公園で実施しました。台風9号の影響で一時は開催も危ぶまれましたが、参加12個団が勢ぞろいした12日午前には台風一過の晴天となりました。14日には手旗信号や救急法などの技能大会と地区ベンチャー主催で団混成の4チームによる綱引き大会および近隣の児童を対象にしたオープンプログラムを実施し、広大な運動公園がスカウト123人と指導者89人、オープンプログラムに参加した88人の児童・保護者の歓声で一杯になりました。15日夕刻は場所を手賀沼近くの五本松公園に移し大営火を行い、スカウト同士の友好を深めました。来年の第15回日本ジャンボリーに向けて、この先一年間更に技能と友情を高めるきっかけとなる非常に良い大会でした。



## 八千代・習志野地区キャンポリー奉仕隊活動



平成21年8月12日(水)～16日(日)群馬県吾妻郡六合村奥草津鋼管休暇村で開催しました。

ここでは、緑の下の力持ち奉仕隊の活動報告をいたします。

地区のベンチャースカウト、ローバースカウトが奉仕隊として、企画から運営までの全てに

携わりました。

実際第14回日本ジャンボリー、第18回千葉県キャンポリー等の経験者が経験から、色々ボーイスカウト隊のためになるよう動いてくれました。

ボーイスカウト隊が楽しく、円滑に日々活動を遂行し、病気・怪我也無く終了したことで、責任を果たしました。

八千代・習志野地区 八千代第4団 ベンチャースカウト隊 小山 大輝

## 第12回神奈川県キャンポリーに参加して (市川・浦安地区)

市川・浦安地区ボーイ隊は、平成21年8月2日～6日の第12回神奈川県キャンポリーに参加しました。場所は1971年、世界ジャンボリーが開催された朝霧高原。

参加数はスカウト75人に奉仕者等合わせて総勢93人。キャンポリー全体では静岡県、山梨県スカウトも参加し、総勢1600人というものでした。

市川・浦安地区サイトは、木立で囲まれた一面芝生で見通しのきくサイトでした。

初日は雨でしたが、スカウト達は元気に設営を行いました。全体開会式は、カラーチームなど素晴らしいセレモニーでスカウト達は感動していました。

2日目以降は雨予報が好天して快晴となり富士山もきれいに見えました。

スカウト達は、場内外プログラム20個の中から、4、5つのプログラムと格闘し、日焼けして満足顔で帰ってきました。

インフルエンザ騒動がありました<sup>が</sup>、ほ

ぼ予定通り行われスカウト、奉仕隊も貴重な体験キャンポリーとなりました。



# されたキャンポリー報告

## 南総地区結成20年記念 “2009 キャンプ大会”

平成21年8月20日～23日の期間、富津市湊の「みなと温習舎」で参加隊116人、スタッフ35人、合計151人で開催致しました。

テーマはBack to Patrol (サブテーマ：スカウトの基本は“班”) B-Pの精神を見つめ直し、スカウト達が班活動の楽しさを実感でき、自然環境充分に有効利用した5つのプログラムを実施しました。①B-P SPIRIT 「浜辺のアート」コンテスト ②アドベンチャープログラム「目指せ山頂」フリークライミング ③班旗立ゲーム「早く・高く・美しく」 ④スポーツプログラム「目指せロンドン!」ビーチバレーボール ⑤Back to Patrol「ポイントハイク」

本大会期間中は天候にも恵まれ、南房総の大海原を望み、夏の潮風そよぐ自然の中、計画したプログラムを怪我人を出すことなく無事終了する事が出来ました。

真っ黒に日焼けしたスカウト達は一段とたくましくなり、友情の絆を深めた仲間との楽しい思い出を、胸一杯に刻んだことでしょう。



## 2009 BS-INBA地区交流大会

平成21年7月5日(日)、佐倉草笛の丘で印旛地区ボーイスカウト交流大会が開催されました。この大会は、昨年の第7回印旛地区キャンポリーのテーマ「Together



Again」に沿ったもので、少人数隊化による班対抗ゲームの不足を補完することと、スカウト仲間の交流を主な目的としたものです。

つゆの晴れ間で過ごしやすい天候に恵まれた中、指導者25人、団委員長他各種委員会24人のもと、スカウト54人が大会に臨みました。

プログラムは班対抗『料理コンテスト』および、『追跡ハイク』です。

料理コンテストでは、課題として出された「じゃがいも」料理に各々趣向をこらし、素晴らしいネーミングをつけ、審査員たちをうならせていました。

追跡ハイクでは、お手製の、文字が刻まれた木製「割符」が、他隊同志で揃うようスカウトに配られ、完成したグループは認定証をもらった後、お互いの名前交換をして新しい仲間をつくりました。

目的はほぼ達成され、大会は成功裏に終了することができました。

印旛地区 地区副コミッショナー 窪 純一郎

## 松戸・鎌ヶ谷地区 創立30周年記念行事 2009地区キャンポリー



平成21年7月29日～8月2日、日本連盟 那須野営場にて、テーマ：前進『那須野営場から新たな出発』—友情と感謝の心—のもと、ボーイ隊11個団、ボーイスカウト95人、指導者及び成人支援者72人、総員167人が参加した。初日はあいにくの雨で、設営が普段より大変だった。2日目はパイオニアリングで信号塔を作り。3日目は待ちに待った技能大会、“火おこし”から始まり、“ローマ戦車”“ツイストパン”など色々な

プログラムにチャレンジ。点数には自信があり閉会式を楽しみにしていました。この日はキャンプファイヤーもあり、他の団との交流もできました。4日目は温泉に行き、チーフリングを作り、のんびりと那須野営場を満喫できた。そしていよいよ5日目の閉会式、技能大会の最優秀班の発表で鎌ヶ谷第2団タイガー班と呼ばれた時は凄くビックリしました。今思うとたくさんの楽しかった思い出が出来た5日間でした。

鎌ヶ谷第2団 タイガー班 班長 酒井 裕平、次長 中村 泰輔、中右 将太郎、太田尻 紗也香、飯田 菜月、二階堂 瑛介

## 上総地区キャンポリー報告

「更に羽ばたけ上総の仲間」を主テーマに、「誰にも負けないスカウト技能」をサブテーマにして、平成21年8月16日から19日の間、茨城県立白浜少年自然の家において、参加者140人(8隊16班のボーイスカウト77人、ベンチャー・ローバースカウト12人、指導者30人、奉仕者21人)で地区キャンポリーを開催した。

概略日程は、16日：設営・開会式、17日：班対抗ゲーム(全体プログラム)、18日：自隊プログラム・表彰式・閉会式、19日：撤営とした。

班対抗は、ロープワーク・救急・火起こし・野外料理・記憶などのスカウト技能を4つのゲームにして、プランコ作成、担架作成、焼きそば作り、ボーイスカウトクイズで競った。自隊プログラムでは、サイクリング・ハイキングを計画し、近隣の鹿島神宮や海岸を訪れ地域状況を学んだ。

期間中4人の体調不良者が出たが、微熱程度(1時間ぐらいで回復)で収まり事故はなく盛会で地区キャンポリーを無事終了できた。



# ゲット!!

## 富士章・千葉県連盟隼章・菊スカウト章 取得スカウト

平成21年2月21日～平成21年8月18日

富士章			菊スカウト章			菊スカウト章			菊スカウト章		
吉田 悠人	富里	1団	椎名 亮太	東金	1団	加藤 汐美	鎌ヶ谷	2団	寺田 夏樹	千葉	14団
和田 麻央人	船橋	9団	福住 琢磨	流山	3団	高橋 菜美	八千代	2団	広納 一輝	千葉	14団
富田 はるか	木更津	3団	平井 佑嗣	松戸	9団	山口 泰史	八千代	3団	伊藤 裕樹	千葉	21団
千葉県連盟隼章			伊藤 一成	千葉	6団	速水 佑介	八千代	3団	鈴木 大	市川	3団
渡辺 一樹	松戸	6団	榎本 紗織	君津	2団	菅原 遥香	船橋	7団	高橋 拓也	市川	3団
宮原 広樹	千葉	1団	森山 優太	君津	2団	井上 千恵	我孫子	2団	小林 佳織	浦安	2団
小林 怜史	千葉	1団	今竹 良希	浦安	1団	相澤 悠	千葉	18団	小島 涼	流山	5団
福田 大和	松戸	1団	谷野 太二郎	浦安	2団	内藤 峻	千葉	18団	吉野 朱夏	流山	5団
高橋 弘輝	船橋	10団	古越 菜摘	浦安	2団	阿部 崇	千葉	18団	岩井 田慧祐	千葉	18団
近藤 一輝	千葉	1団	渡辺 海	浦安	2団	川藤 美咲	我孫子	2団	関口 裕也	柏	9団
菱木 奈津美	富里	1団	鳥飼 将利	匝瑳	1団	中川 琴美	市原	1団	鮫田 直樹	我孫子	1団
菊スカウト章			田中 伊織	浦安	2団	岡安 利佳	船橋	7団	今野 威	我孫子	2団
大藪 将士	千葉	21団	岩井 田慧美	千葉	18団	西澤 侑輝	船橋	14団	深瀬 喬俊	八千代	2団
勝見 斉充	君津	2団	渡邊 琢哉	千葉	9団	山下 大貴	千葉	8団	大西 麻奈	流山	5団
			多田 圭佑	千葉	27団	青柳 里奈	千葉	8団	武田 愛海	野田	7団
			鈴木 慶一	千葉	27団	大津 誠	八千代	2団	大内 卓也	流山	3団
			根岸 瑠美子	松戸	1団	箕田 章宏	千葉	1団			

### “隼章”取得

私は隼章を取得するにあたり、高校の部活動での“スキー”をプロジェクトとして進行了ました。高校総体出場を目標に日々努力して取り組み、(プロジェクト終了後となってしまいましたが、)その結果、目標達成!!また強い精神や健康な身体を手にし、スキルアップすることができました。

練習や合宿は辛い事もありました。しかし、家族を始め、友人や先生方の応援や協



力といったサポートがあったからこそできたものと、とても感謝しています。こんな経験はなかなかできないし、実に大きなものを得ることができた大変貴重な時間だったと言えます。

ここから学んだことも多々あります。“頑張る”という一見当たり前のように見えることが、一番難しい事でした。ただひたすらに、ただ真剣に、一生懸命打ち込むということ。その過程が大切だということを知りました。それまでは何に対しても結果重視。“中身は関係ないもの”と言う考えでした。本気で悔しくて泣

### 印旛地区 成田第1団 ベンチャースカウト隊 水野 千春



いたり、笑って喜んだりできるのは努力という過程があったからこそで、全力を出し切るということに意味があるのだと思いました。

辛い経験と言うのは絶対に人生の糧となると思っています。これからも目の前のことから逃げずに立ち向かっていきたいと思っています。チャレンジ精神を忘れずに、一步一步を確かなものとし、更なる向上を目指し、これからは活かしていこうと思っています。



### わが地区自慢のキャンプ場紹介

## 「我孫子第一団キャンプ場」 東葛地区

我孫子第一団のキャンプ場は、平成16年1月にそれまで17年間活動のベースとしていたキャンプ場から、五本松公園すぐ近くに移転をしました。約3,700㎡の面積です。ベーデン-パウエル卿は「スカウティングの真の目的は野外活動にある」と言っています。野外活動すなわち自然の中から沢山のことがらを学び取りなさい、と言うこととなります。このキャンプ場にも高い木や低い木が多くあり、キジをはじめ多くの鳥たちのさえずりも聞こえ、昆虫も多く生息しています。野外での活動が出来る広場もあり、モンキーや、ロープウェイなどのパイオニアリングも可能です。一日のキャンプを締めくくるキャンプファイヤーを楽しめるスペースもあります。キャンプサイトも完全ではありませんが一個隊ぐらいは収容で

きます。これからサイトの拡張と整備を進めていきたいと考えております。プレハブのスカウトハウスには、特大のベーデン-パウエル卿の肖像(油絵)がスカウトたちの元気な活動を見守っています。活動中の緊急避難場所また屋内集会に活用されています。皆さんの団にもきっと立派なキャンプ場があるでしょうが、「おきて」に「スカウトは感謝の心を持つ」とあります。私たちに多くの体験をさせてくれる自然に感謝を忘れないことがベーデン-パウエル卿が望んでいたスカウティングの目的でしょう。そして多くの先輩たちの努力と汗のしみみこんだこのキャンプ場に感謝をし、これからも充実したものに行きたいと望んでいます。(文責：団委員長 中嶋一夫)



### キャンプ場問合わせ

我孫子第一団 団委員長  
中嶋 一夫 04-7149-2577  
キャンプ場所在地 我孫子市岡発戸榎町

# 第一回 富士章受章スカウト顕彰会・第6回プロジェクト発表会

平成21年5月10日(日) 千葉県青少年女性会館



顕彰の後、ステージ上で栄誉を受ける

平成19年度まで日本連盟にて実施されてきた、富士章受章スカウト顕彰会は、平成20年度から県連盟にその実施が移されることになりました。

これを受け顕彰会と従来から県連盟で実施してきたプロジェクト発表会とをあわせて開催することで、富士章受賞スカウトの感想や抱負などをリアルタイムに聴け、またプロジェクトへの取り組みプロセスを知ることは、後に続くボーイスカウトやベンチャースカウトたちの活動意欲を高める機会となります。

## スカウトは感謝の心を持つ

松戸・鎌ヶ谷地区 鎌ヶ谷第2団 ローバースカウト隊 木崎 達也

この度は第1回富士章受章スカウト顕彰会及び第6回プロジェクト発表会に参加できた事を心より感謝いたします。

現在私はローバー隊に所属し、後輩スカウトの見本となるような活動を目指して日々スカウティングに励んでいます。ここまで私が来られたのは素晴らしい団家族である鎌ヶ谷第2団に所属しながら心温かいリーダー、先輩や後輩、何よりも様々な行事で出会った仲間の支えがあったからだと思えます。至らない部分が多々ありますがこの感謝の気持ちを後輩へ伝えられるよう努力し、永遠のスカウトであり続けたいと思えます。



## 富士章顕彰会に参加して

千葉地区 千葉第1団 ローバースカウト隊 原田 祐樹

富士章顕彰会に参加して、自分以外の富士スカウトがどうやって富士章取得まで辿り着いたのかを知ることができてとても良い勉強になりました。同じアワードに挑戦していても、内容がまったく違っていたり、自分が挑戦しなかったアワードについて知ることができ、一人ひとりが全員違うことにチャレンジして富士スカウトになることができたのだと感じました。そして、改めて富士スカウトになる大変さを知ることができました。これからは富士スカウトとして胸を張り、スカウト活動を続けていきたいと思えます。



## 富士章を取得して

印旛地区 富里第1団 ローバースカウト隊 吉田 悠人

私は、14年前にビーバースカウト隊に入隊し、人生の3分の2をボーイスカウト活動とともに歩んできました。学校の部活動や試験の勉強、高校と大学への受験など、普段の生活との兼ね合いに悩むこともありましたが、一緒に活動して出会った仲間や原隊の隊長、地区や県連盟の方々に支えられ目標であった最高章を取得することができました。しかし、取得するために時間がかかり、制服の胸に着けていた期間は短くて残念でした。今後は、記章を着けていなくても富士スカウトとしての自覚を持ってスカウト活動を続け、後輩スカウトの育成にも力を入れると共に、スカウトとしてより多くの経験を積んでいきたいと思えます。



## 首相官邸表敬訪問を終えて

上総地区 市原第7団 ローバースカウト隊 米本 慶治

今回、内閣総理大臣、および文部科学大臣に表敬訪問ができたことを大変うれしく思います。普段入ることのできない首相官邸や文部科学省をみることは貴重な体験でした。

また、他県のスカウトから聞いた団の様子も興味深いものばかりでした。やはり富士スカウトを出すような団は、特徴のあるところが多く、キャンプなどの話はとても参考になる部分がありました。そのような点は自分自身や、自団に取り入れ、より良い活動ができるようにしていきたいと思えます。

この表敬訪問は、他団との交流、情報交換の機会としても、貴重な場でした。今回の体験を活かしつつ、今後の自団や地区の後輩が同じような場に出られるように応援していくつもりです。



プロジェクトの取り組みプロセスを発表する木崎君



パネルディスカッションに真摯に耳を傾ける、ボーイスカウトやベンチャースカウト



指導者に対するグループワーク



富士章受章スカウトと参加スカウトの記念写真

# 平成21年度 千葉県連盟年次総会報告

千葉県連盟 事務局長 星 淳一

平成21年度年次総会は、6月7日(日)野田市興風会館で開催されました。

会議の部では、予定した議案がすべて原案どおり承認されました。つづく講演の部では、日本オリンピック委員会の平野一成先生が、「こどもとスポーツ～国際競技力向上をめざす現場から～」と題して、子どもの無限の可能性についてお話しされました。

休憩の後、御代川県教育庁生涯学習課長、宮内野田市教育長、吉田日本連盟事務局長他の方々を来賓としてお招きして式典の部にはいり、富士章、ウッドバッジが伝達され、連盟長から関係者へ年次表彰の県連盟特別有功章などが贈呈されました。懇親会は100人を超える参加者で、日本連盟表彰受章の方のお祝いもあわせて弥栄三唱により散会しました。

準備から当日の片付けまで地区を挙げてご協力いただいた北総地区の皆様のご尽力にあらためて感謝申し上げます。



# 千葉「そなえよつねに」 第7回災害準備大作戦実施報告

印旛地区 災害支援委員長 畑田 正則



第7回災害準備大作戦は、平成21年4月12日(日)、佐倉市立小竹小学校において実施された。「佐倉市直下で大地震が発生、印旛地区の要請により、県内各地区の災害支援要員が被災

地の小竹小学校に開設された佐倉市災害ボランティアセンターに駆けつけた。」との想定のもと、校庭・体育館・プールなどの施設を活用し、佐倉市、同社会福祉協議会、志津消防署、自衛隊千葉地方協力本部、災害救援ボランティア、NTT東日本など防災関係機関等の支援を得て、県連盟役員、災害支援要員、地区実行委員、スカウト、近隣住民、後援団体など合わせて605人も多数が参加。現実在即した支援活動の手順や技術を訓練するとともに、地区内スカウトは、訓練の見学と基本的防災術を同時進行で学習しました。

終了に際して、内外から、600人もの大人数の参加、災害支援ゾーンの要員の活躍ぶり、子ども達の教育効果、ボーイスカウト組織と行政防災組織との連携など、驚きと評価が寄せられ、大きな成果を収め終了することができました。

## 新 地区だより



### 八千代・習志野地区

#### 「創立30周年記念地区キャンポリー」

- …群馬県奥草津鋼管休暇村で開催
- …八千代市の「1%支援制度(市民活動団体支援金交付制度)」の活用

八千代・習志野地区では、本年地区創立30周年にあたり、記念事業として地区キャンポリーを長期キャンプとして開催する運びとなった。これの開催に当り、企画から運営に、ローバースカウト、ベンチャースカウトを参画させることで、より楽しく、実りある地区キャンポリーとすべく、その方針を打ち出した。

その結果として、担当スカウト30人程が企画・運営に参画し、立派にその役割

を果たすことができました。また、参加隊のプログラムは、自主プログラムを原則とし、各隊の自主性を重視する方針で計画を進め、各隊の特徴が十分に反映され、様々な活動が展開されることとなった。全体プログラムとしては、草津白根山の征服が企画され、山頂までの征服はできなかったが、160人の登山としては、事故も無く、また、班制度の活用度も様々に展開され、地区内の状況把握に役立つこととなった。



開催場所が群馬県の奥草津と遠隔地故に、様々な障害もあったが、それを乗り越え、温泉と快適なキャンプサイトに

恵まれた。気象条件も、前半に雨、後半は初秋の気配を感じさせる好天に恵まれ、注文したような天候となり、良い体験をさせることができた。一方、経営面で、八千代市の1%支援制度を活用する方針を打ち出し、この事業を含め、全体で3事業に対して支援を求めた。その候補を勝ち取り、現在一般市民からの支援の応募を待っている状況である。

#### 編集後記

この夏、各地区で開催された“地区キャンポリー”の報告を、一挙掲載(2地区は未開催)いたしました。

天候にも恵まれ、それぞれの報告からは、夏季キャンポリーの楽しさや独自の取り組み、創意工夫などが伝わってきます。

限られた紙面で、十分にこの感動を伝えきれず、不満の残る地区もあったことと思います。ぜひ、その思いを県連ホームページに投稿していただきたいと思ひます。

これからもスカウト登録数拡大のために役立つ紙面づくりを心がける所存でありますので、一層のご協力お願いいたします。

編集長 上野 孝

	回数	隊数	団委員	指導者	スカウト	計
登録数	7	32	64	118	334	516

(加盟登録状況)平成21年8月末日現在